

エコシティたかまつ環境マネジメントシステム 平成 26 年度 実績 報告

1 概要

本市では、平成23年10月より、本市独自の環境マネジメントシステムである「エコシティたかまつ環境マネジメントシステム」を策定し、環境負荷のより一層の低減と事務の効率化を図るだけでなく、「高松市地球温暖化対策実行計画」への積極的な貢献を目指している。

- システムの運用期間 平成23～32年度
- システムの対象範囲 市の全ての課（室）・施設における事務事業
- 環境目標
平成32年度までに基準年度である平成21年度から温室効果ガスを18%削減

2 環境目標として設定する項目の実績等

(1) 事務事業から排出される温室効果ガスの削減

基準年度 (21年度)	26年度	対基準年度増減①	目標値 (32年度) ②	評価①/②
102,212 t-CO ₂	136,305 t-CO ₂	33.4%	△18.0%	D

- ※評価の基準 A 達成率 100%以上 B 達成率 50%以上～100%未満
C 達成率 0%以上～50%未満 D 達成率 0%未満 (マイナス)

【点検・評価】

・温室効果ガスを削減する目標にもかかわらず、排出量が増加しており、目標の実現は極めて難しい。

・市が排出している温室効果ガスの 89.2%は「電気 (46.3%)」と「プラスチックごみ焼却 (42.9%)」が占めており、その内、「電気」にかかる温室効果ガスの排出量の急増が大きな原因である。(別紙1参照)

・「電気」については、次のとおり、使用量は 8.4%削減したが、原子力発電所の停止に伴い、排出係数(単位使用量当たりの排出量)が 21年度に比べて約 2.2倍となったため、温室効果ガス排出量が増加した。

(参考) 市全体の電気使用量

基準年度 (21年度)	26年度	対基準年度増減①	目標値 (32年度) ②	評価①/②
97,464,824 kwh	89,310,928 kwh	△8.4%	△10%	B

【今後の取組み】

① 削減目標等の見直し及び新たな数値目標の設定

国は、平成27年7月に、「2030年度の温室効果ガス削減目標は、2013年度比で26%削減

減する」とした新たな目標を表明し、今後、本年末に開催される気候変動枠組み条約第21回締結国会議（COP21）での合意の状況を踏まえ、できるだけ速やかに地球温暖化対策計画を策定することとしている。

本市においても、今後、国の動向等を十分に注視し、必要に応じ、温室効果ガスの削減目標を含む、地球温暖化対策実行計画の修正や見直しを行う予定であり、それに合わせて、エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの削減目標等を見直したい。

② 再生可能エネルギーの積極的な活用

市有施設に太陽光発電の設置を促進する。

〔27年度以降設置予定箇所〕林コミュニティセンター、屋島陸上競技場、浅野保育所ほか。

③ 公用車への電気自動車の積極導入

市の公用車に環境負荷の少ない電気自動車を積極的に導入する。

〔27年度〕 2台導入予定

④ 省エネ設備等の導入

設備・機器の補修、効率的な設備への取替えにより、施設の省エネルギー化を積極的に進める。

〔27年度以降〕 老朽化している本庁舎の冷暖房設備等の更新など。

（2）その他の環境配慮項目の取組み

■用紙類使用量の削減（コピー用紙等使用量：A4判換算）

基準年度（18年度）	26年度	対基準年度増減①	目標値（27年度）②	評価①/②
63,488,175 枚	60,774,124 枚	△4.3%	△6.0%	B

【点検・評価】

基準年度より削減しているものの、このペースでは目標値の達成は難しい。

25年度は△7.3%と目標値を達成したものの、事務量の増などにより、26年度は使用枚数が25年度比で103.2%となっている。

【今後の取組み】

全庁的に削減を呼び掛けるとともに、会議資料の簡素化、タブレットの活用等を進める。

■上水道使用量の削減（施設床面積1㎡当たりの上水道使用量）

基準年度（18年度）	26年度	対基準年度増減①	目標値（27年度）②	評価①/②
1.12 m ³ /m ²	0.94 m ³ /m ²	△16.1%	△6.0%	A

【点検・評価】

施設改修・改築による効率化等で、すでに目標を達成済。

【今後の取組み】 現在の取組みを継続する。

主な排出要因と温室効果ガス排出量（単位：kg—CO₂）

排出要因	温室効果ガス排出量基準年度 (平成21年度) ①	平成26年度				増加した原因
		温室効果ガス排出量 ②	温室効果ガス構成比 (%)	温室効果ガス排出量比較 (対基準年度増減)		
				②-① (kg)	②/①-1 (%)	
電気	31,773,532	63,053,515	46.3	31,279,983	98.4	使用量は基準年度に比べ、削減(8.4%)したが、原発の停止に伴い、排出係数(単位使用量当たりの排出量)が基準年度に比べて約2.2倍となったため。
プラスチック ごみ焼却	56,488,035	58,438,818	42.9	1,950,783	3.5	全体の廃棄物量は減少(1.4%)したが、廃棄物に含まれる廃プラスチックの組成率が増加したため。
灯油	2,732,115	2,881,025	2.1	148,910	5.5	南部クリーンセンターが主要な使用施設で耐火材補修に伴う灯油使用量増が主な原因。
A重油	2,890,640	2,593,391	1.9	△297,249	△10.3	
ごみ焼却	2,132,009	2,102,342	1.5	△29,667	△1.4	
都市ガス	1,583,148	2,125,259	1.6	542,111	34.2	斎場公園・競輪場(冷暖房)・朝日新町給食センターが主要な使用施設で、朝日新町給食センターでの給食対象校の拡大等が主な原因。
下水処理	1,769,070	1,908,039	1.4	138,969	7.9	下水道の普及により、処理水量が増加しているため。
その他	2,843,024	3,202,591	2.3	359,567	12.6	主に本庁舎の地域熱供給の利用や、天然ガス車の増車等により増加。
計	102,211,573	136,304,980	100.0	34,093,407	33.4	